

気仙沼の高校生の魚離れは本当に進んでいるのか

気仙沼高校 1208B班

I 序論

気高生が持つ魚に対するイメージ…

栄養が豊富

生臭い

調理が面倒

→栄養面や品数の多さに対するプラスの意見

→マイナスの意見も少なくない

魚離れが進んでいる？

マイナスの意見が多かった原因…

→捌いたり鱗をとるなど調理のハードルが高い

→肉の方が価格が安い&調理がしやすい

魚嫌いが増えている？

「肉>魚」の関係が定着している？

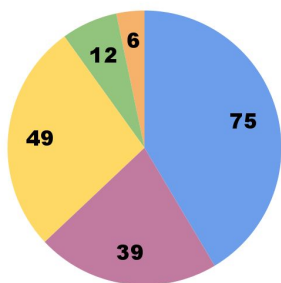
II 本論

1. アンケート調査

※気仙沼高校生687人のうち181人がClassilにて回答

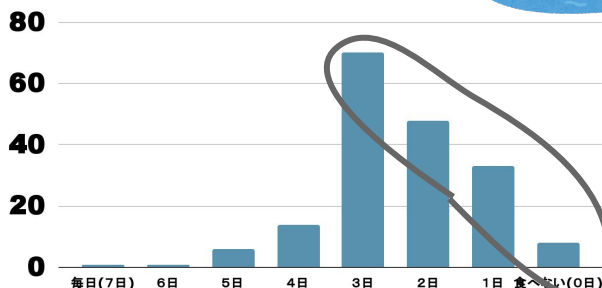
①魚は好きか

● 好き ● どちらかといえば好き ● ふつう ● どちらかといえば嫌い ● 嫌い



②一週間にどれ位の頻度で魚を食べるか

■ 人数



【アンケートの結果から】

→魚が好き、もしくはどちらかといえば好きと回答した人が約6割を占めている

しかし

魚を食べる頻度を見ると
一週間の半分以下しか食べていない

III 結論・まとめ

「魚離れは進んでいる」→ ○

II-1-①参照

「魚嫌いが多くなっている」→ ✕

II-1-②参照

「肉>魚」→ △ (全国規模ではこの傾向だった)

II-2参照

IV 課題

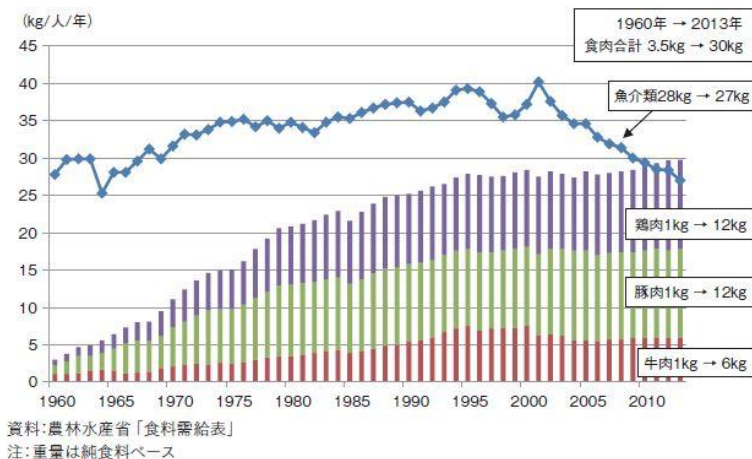
・幼少期から魚について海洋教育や食育授業を行うことで魚により親しんでもらえることができるか検証する必要がある。

・気高生の間で、本当に肉>魚の傾向になっているのか。

→今回は調査することが出来なかった



2. 魚と肉の比較



【グラフから】

かつてはほぼ安定していた魚介類の供給量が
2000年以降から約13kg減少している

対して

肉類は増加し続け、2010年には魚介類を逆転し
現在も斜め右上がりの状態が続いている

V 参考文献 農林水産省「食料需給表」

https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03_000814.html